ブルジョアジーの反革命的策動
=被抑圧民族の圧殺を許すな!!

—杉高入管斗(準)—

学校と授業なんぞ死ぬ様つまらネーとばかりには昼寝ばかりしている愛すべき杉高生諸君、並びにブルジョアピラミッドの幻想を追い続けて空虚な勉強にうたすらはげむ学友諸君に対して、アッピールをここに送る。

現在の左翼総体の混迷の状況を切り開くモノは何であろうか。今日のこの段階の時にあっては斗争の大衆的高揚を考えることは、全くの幻想であり、又その場かぎりの非永続的運動などというものは意味のないコトである。この時にあっては自然生的なアンチ権力という様なモノでなく永続的、組織的、目的意識的運動というモノが絶対に必要であり、同時に、これこそ今の混迷状態を止揚する唯一のモノである。この様な現在の左翼にとっての最重要課題とは〈入管問題〉・〈在日朝鮮人問題〉なのである。

入管斗争—そこにおいて我々は、まず抑圧民族たる我々日本人と、被抑圧民族たる在日朝鮮人、そして、日本の支配階級たるブルジョアジーという3つの関係を明確に把握しなければならない。

旧日帝の海外侵略、それと対応して労働力として強制的に日本に連れてこられた朝鮮民族というのがあり、しかも、それらに対し日本人プロレタリアートはブルジョアジーの策動にのり一象徴的なモノとして関東大震災における在日朝鮮人大虐殺がある一自らを抑圧民族として形成してきたというコトを我々は確認しなければならない。抑圧民族として自己を明確化し、そこからブルジョアジーの排外主義、日本のプロレタリアートと在日朝鮮人との分断政策の一環としてく入管体制>というものをとらえていかなければならない。

く入管体制>とは、まさに日本における反帝国主義の前衛的斗いの伝統を持ち、その過酷な支配、弾圧ゆえに最も反帝国主義的である在日朝鮮人に対する三段の手段としてある。日帝反革命が開始されんとするこの時、我々は伝統的に形成せられてきた自己の抑圧民族たる意識を否定した上でなければ、入管斗争において斗う者的立場にある日本プロレタリアートとしての方針、行動は出て来ないのである。抑圧民族としての自己の解体、その意識なくしては、ブルジョアジーの排外主義的策動に屈服させられることは明らかであり、まさにその意識を持ってこそ、ブルジョアジーによる在日朝鮮人に対する差別、弾圧を粉砕し被抑圧民族たる在日朝鮮人の斗いを、我々は防衛していかなければならないのである。

抑圧民族たる我々が、自己解体し在日朝鮮人と一体となりゆく、それは、在日朝鮮人の無条件の自治権、自決権を認め、国籍条項の書き換えを弾圧支持してゆくそのコトによって体現化されて行くのである。それは、本日朝鮮人民との連体であり、そのことは日本左翼の戦前からつちかわれて来た一口は義からの永続の道でもある。そしてく入管斗争>とは綱領的な国際主義への試金石ともなるのである。

* 入管体制粉砕!!
* 入管法再上程阻止!!

出発

見飽きた。夢は、どんな風にでも在る。
持ち飽きた。明けても暮れても、いつみても、
街々の喧噪だ。
知り飽きた。差押えをくらった命。
—ああ、「たわ言」と「まぼろし」の群れ。
出発だ、新しい情と響きへと。

* 11.7入管体制粉砕〔2:30 亀塚公園(田町下車)〕

高校生総決起集会に結集せよ